

平成23年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

開発目標		経済性の向上、周辺環境への影響抑制、リサイクル性向上													
新技術登録番号	SK-020016-A	区分	環境対策工 - 水質保全工								製品				
分類	環境対策工 - 水質保全工														
新技術名	ウォーター・リサイクル工法 (移動式切削汚泥処理システム)														
比較する従来技術 (従来工法)	舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理を含む)														
新技術の概要及び特徴	コンクリートやアスファルトの舗装路面に切れ込みを入れる道路カッターなどで発生する汚泥排水を、車載した装置にて現場で作業をしながら脱水・再生処理を行い排水を再利用可能な状態にする技術														
活用効果評価	所見	<p>従来技術に比べて活用の効果は同程度である。なお、下記の理由により経済性、環境について従来技術より優れた評価を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済性：濁水を車載プラントにて再生水と脱水汚泥に分別し、産廃の減量化により経済性が向上。</li> <li>・環境：作業終了後、再生水は排水が可能で、産廃の減量化と相まって環境負荷が軽減。</li> </ul> <p>その他、下記の観点で施工性について良い評価を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切断水が炭酸ガスにより中和化されるため、切断水として品質が向上。</li> <li>・切断時に使用する冷却水の補給頻度が減り、施工性の向上が図られる。</li> </ul> <p>[安定性] 現場での活用条件の違いがあっても、各々従来技術と同等以上の評価を得ている。</p>													
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱水汚泥の抜き取りに時間を要する。</li> <li>・従来技術と同様で、作業水の飛沫等により回収率は100%ではない。</li> </ul>													
活用効果調査結果	対象工事	1	旧橋撤去工事	「中国地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H20											
		2	歩道整備工事	「中国地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H19											
		3	電線共同溝工事	「中国地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H20											
		4	旧橋撤去工事	「中国地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H20											
		5	地下道監視設備工事	「中国地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H21											
		6	電線共同溝工事	「九州地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H20											
		7	橋梁補修工事	「九州地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H21											
		8	橋梁上部工事	「東北地方整備局」 従来技術：舗装版切断工(濁水収集・運搬・処理) H21											
		9													
		10													
活用効果調査結果	ケース番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	項目の平均	従来技術 (従来工法)	備考	
	項目	H20	H19	H20	H20	H21	H20	H21	H21						
	施工時評価	経済性	B	B	B	B	B	B	B	B			B	C	
		工程	C	C	B	C	C	C	C	C			C	C	
		品質・出来形	C	C	C	C	C	C	C	C			C	C	
		安全性	B	C	C	C	C	C	C	C			C	C	
		施工性	C	C	C	C	C	C	C	C	B		C	C	
		環境	B	B	B	A	C	B	B	B			B	C	
		その他	-	-	-	-	-	-	-	-					
	施工時評価点	B	C	C	C	C	C	C	C	B		C	C		
追跡調査	-	-	-	-	-	-	-	-							
総合評価点	B	C	C	C	C	C	C	B			C	C			
活用効果評価	項目	評価結果	補足												
	成立性	技術として成立している	内容	判定区分											
			技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無	技術として成立している 技術として成立していない											
	優位性	従来技術と同等	従来技術に対して優れている度合い	A	従来技術より極めて優れる										
				B	従来技術より優れる										
				C	従来技術と同等										
				D	従来技術より劣る										
	安定性	高い安定性を有す	各評価項目の判定結果による総合評価	高い安定性を有す											
安定性に問題がない															
安定性が確認されない															
現場適用性	-	技術の優位性が高いものの件数の多寡	広い												
			特に広いとまではいえない												
区分	従来技術に比べて活用の効果は同程度である。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す	-	-												
追跡調査の必要性	無し	-	-												
追跡調査															